

美術授業に カメラ

企画編集 / 鈴木英雄

題材名『風と作品』
第5学年1組30名



平成20年7月
東京都豊島区立巣鴨小学校
庖刀由利子教諭の授業

ねらい
○風と作品のかわり方を考えながら写真を撮ることを通して、多様なものの方角をばくみ、創造的な造形表現を促す発想や構想の能力を高める。

題材について

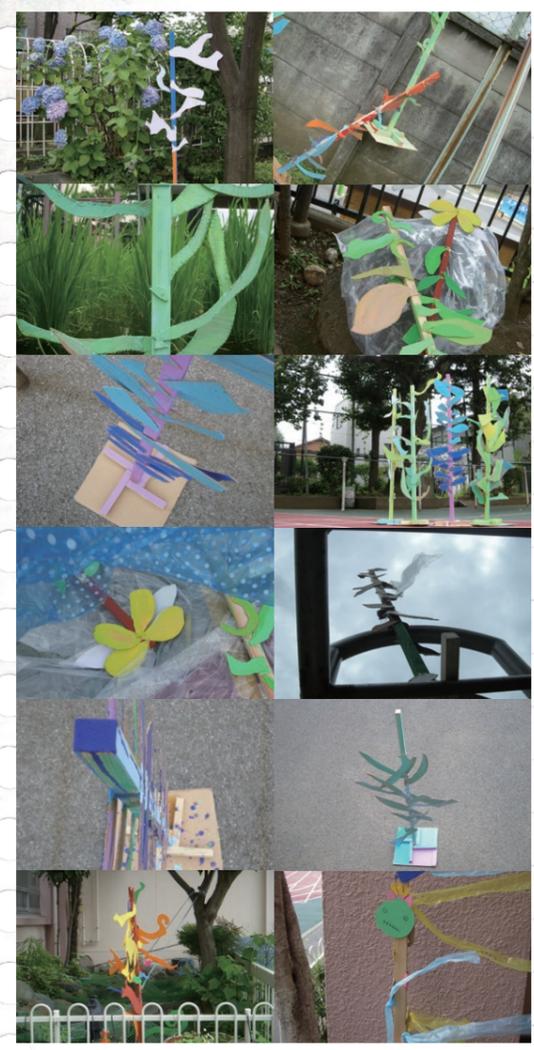
5年生になって、「児童は風と音」という題材で造形遊びを行っている。気持ちのよい風が吹く中、風と音が鳴るものを使って、場所とかわり合いながら活動を楽しんだ。次に、その活動を生かして、「風を感じる木」を小割り、ラワンペンヤを使って制作した。さらに、鑑賞として、作品を写真に撮ることを想定した。作品と風の面白さをさらに味合うような楽しい活動にしたいと考え、本題材を設定した。

第一段階

1 カメラの使い方を知る
電源・シャッター・ズームのスイッチの位置など。

2 「風を感じる木」(前題材でつくった立体作品)を校庭のさまざまな所に置き、写真に撮る。
いろいろな視点から見たり、写真の撮り方を工夫したりして、楽しい・面白いと感じる見え方を発見し、写真に撮ろうとする。

3 撮影した写真から2枚を選ぶ。
風という抽象的なものはどうやったら写せるのか。また、自分の作った作品と合わせてどう風を表現するかなど、高学年らしい発想で考えさせたい。学校の校庭と、養生シートやビニール素材、すすんテープなどを小道具として使って、また、友だちとかわわつてなど、児童が自らフラインダーに画



シャッターを切るタイミングや角度で被写体の表情が変化する。

第二段階

同時に撮った作品を鑑賞することに
よって今まで気付かなかったものの見方、友だちの作品のよさ、さらには、写真の面白さにもふれ、楽しい活動としてまとめた。

1 写真を色画用紙にはり、写真から感じたことを画用紙に楽しく表す。
表したいことに合わせて、写真、絵や文字の形や色の組み合わせなどを工夫する。

2 互いの表現を見合う。
【材料・準備】プリントした2枚の写真・4つ切り色画用紙・カラーペン・色紙など
友達の表現の意図や面白さなどに共感しながら見ることを促す。



写真 / 善本喜一郎・佐藤正樹



風邪待ちをする子ども達。

写真・言葉・デザインのコラボレーションが世界を完成させる。



写真 / 鈴木英雄

庖刀由利子教諭談

表現活動する子どもは、体全体の機能を生かして感じ、記号化された言語に必ずしも頼らないで、体全体で表現する。それゆえ子ども心の読み取りは難しい。
この感覚はまず、デジタルカメラを手にとった時から始まる。簡単な説明を聞いた後は、マニュアルを見なくてもどんどん試行錯誤しながら、リテラシーをつけていく。15分もすれば、ほとんどの活動は大人の手を借りなくてもできる程になる。また、最初はただ単に写真を撮るのを楽しんでいたのが、お互いの写

真を鑑賞し面白さを味わうとすぐに視点つまりモノの見方や感じ方を変えて、自分の感じた面白いモノを探していく。子どもの身体性はさらに発揮され、体全体で試し、表現する。
写真は正直である。写し手が見た世界を四角い枠に正直に切り取っていく。そこには、私が以前から見たいと切望していた、子どもが感じたままの、面白い世界や好きな世界が歴然と表出されていた。言葉や説明はなくても、子どもが見たり、感じたりしたことが見えるようだった。私は、そこに写真の新たなよさを再確認する。
子どもにとっても、私にとっても大変有意義な機会となった。APPA(社) 日本広告写真家協会の方々を始め、このプロジェクトに参加してくださった方々には、本当に感謝に耐えない。